

ICUにおける人工膵臓を用いた血糖管理法の現状報告 —安全で労働負担が少ない血糖管理法の確立を目指して—

救急部・集中治療部

○壬生 季代 薦田 直之 川崎 一起 麻植 美佐子

麻酔科学講座

山下 幸一 矢田部 智昭

【はじめに】

高血糖が感染症を誘発することは良く知られているが、ICUの重症患者に対する厳密な血糖管理には難渋する場合が多い。特に厳密な血糖管理における低血糖発作や頻回の血糖測定に伴う労働負担、インシデントの増加が問題視される。今回、人工膵臓（日機装社）を用いたclosed-loop式血糖管理を導入したので、その現状について報告する。

【方 法】

当ICUに入室された患者38例を対象とした。人工膵臓で周術期血糖管理が行われた群（人工膵臓群：n=19）と、sliding-scale法または持続インスリン投与法を用いて血糖管理が行われた群（コントロール群：n=19）に分け、両群の比較検討を行った。

【結 果】

人工膵臓群はコントロール群に比べ、正常値に近い良好な血糖管理が得られた。人工膵臓群では低血糖発作は皆無で、コントロール群では1例（5.3%）にみられた。人工膵臓群で採血回数・安全確認回数・インシデント件数が有意に減少した。

【結 語】

人工膵臓を用いることによって厳密で、安全なICU血糖管理が可能であっただけでなく、看護ケアにおける労働負担の軽減にも有用であることが示唆された。

〔平成21年2月26日～28日 第36回日本集中治療医学会学術集会（大阪）にて発表〕